

2016年3月期第3四半期 決算説明会資料



MITSUMI & CO.

2016年2月4日
三井物産株式会社

(注) 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

2016年3月期第3四半期決算サマリー

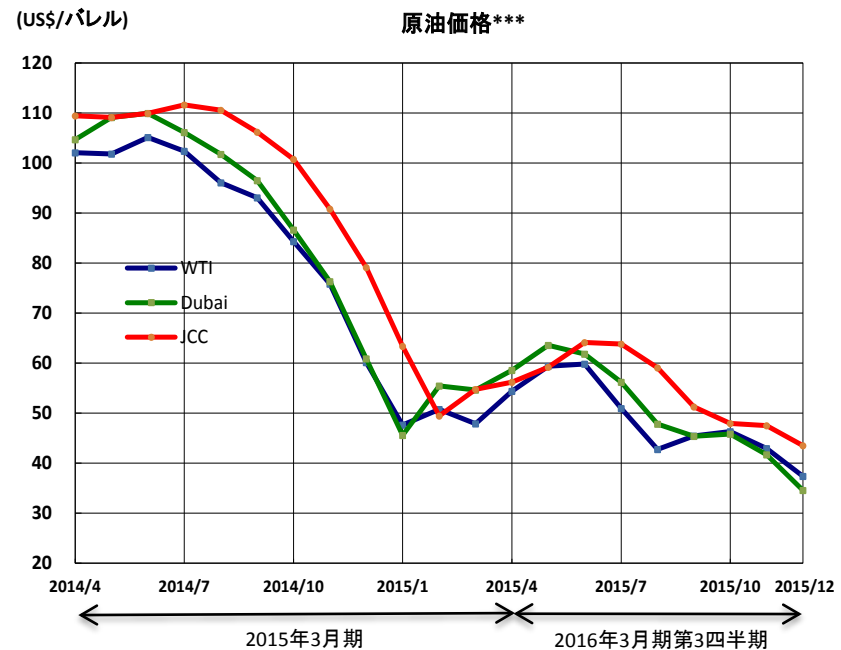
- ◆ EBITDA：4,690億円、従来年間予想6,600億円に対する進捗率71%
- ◆ 四半期利益：1,344億円、前年同期比▲1,200億円の減益
 - 金属＋エネルギー：市況悪化、固定資産の減損・除却損等により▲1,351億円の減益
 - 機械・インフラ：北米市場を中心に好調継続
 - 化学品＋次世代・機能推進：Novusや企業投資開発事業の好調等により＋376億円の増益
 - 生活産業：課題事業への対処等により▲90億円の減益
- ◆ 当期利益予想：従来予想2,400億円から1,900億円に修正
- ◆ 基礎営業キャッシュ・フロー：4,200億円、堅調なキャッシュ創出力を維持
 - 15/3期(6,600億円)からの累計1兆800億円
 - 新中経3年間(15/3～17/3期)の見通しに対する進捗率64%
- ◆ 年間配当予想
 - EBITDA、基礎営業キャッシュ・フロー状況を勘案し、従来予想の1株あたり64円を据え置く

2016年3月期第3四半期 経営環境

- ◆ 世界経済：米国を中心に先進国が回復を下支えたものの、中国経済成長鈍化の影響により、非常に緩慢な成長に留まる
 - 米国：雇用拡大や原油安を背景とした個人消費の増加、住宅市場の緩やかな回復に支えられ、堅調な拡大を継続
 - 日本：雇用・所得環境が良好な一方、新興国経済の減速に伴う輸出の伸び悩みや生産の低迷により、緩慢な回復に留まる
 - 欧州：量的緩和策やユーロ安、原油安の恩恵を受け、個人消費を中心とした内需主導の緩やかな回復が継続
 - 中国：鉱工業生産や固定資産投資の伸び悩み、輸出減少により成長の鈍化が継続
 - 他新興国：構造改革が進むインドが好調な一方、資源輸出への依存度が高いブラジルやロシア等の景気は後退
- ◆ 鉄鉱石価格*は、中国経済の成長鈍化を背景に、11月以降、概ね40-50米ドル/トンのレンジで推移 *Fe 62% CFR North China
- ◆ 原油価格は、緩慢な需要の伸びと供給増加見通しを背景に、12月末には、30米ドル/バレル近くへ下落



**業界紙複数社による日別スポット指標平均



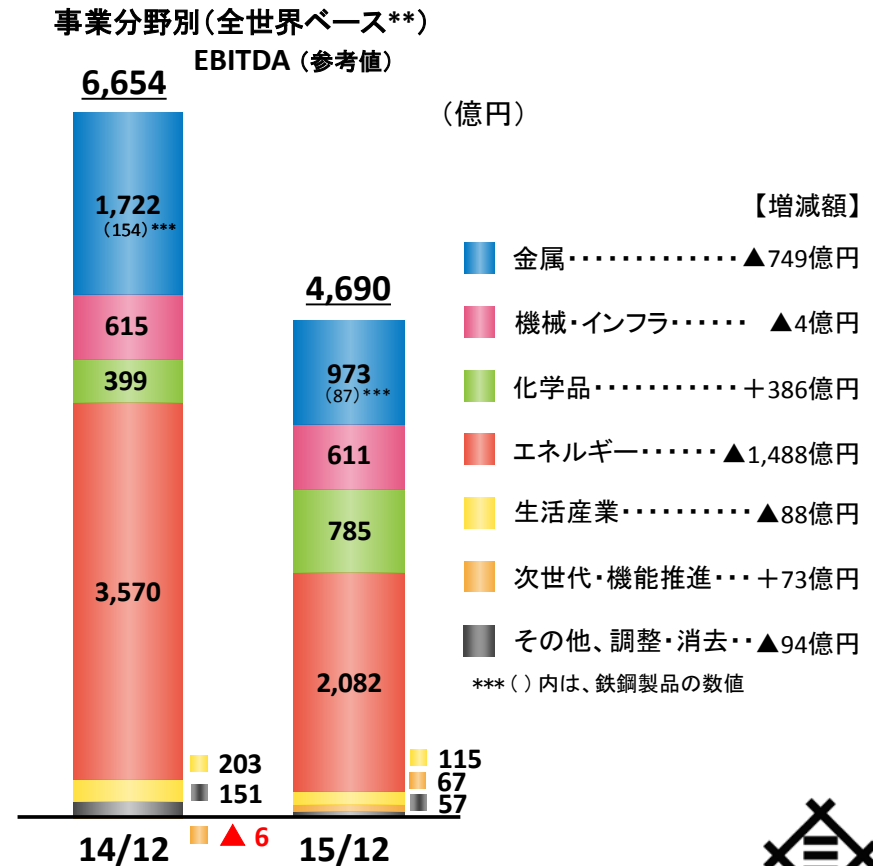
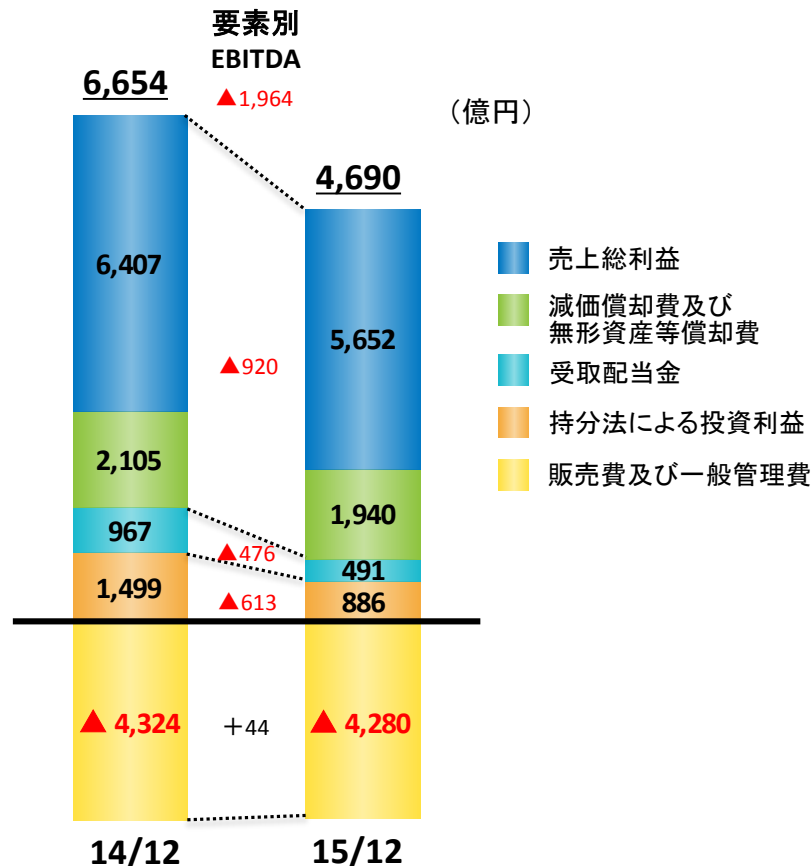
***月間平均

2016年3月期第3四半期 経営成績

◆ EBITDA* 4,690億円：前年同期比 ▲1,964億円

- ・ 売上総利益(減価償却費足し戻し後)：鉄鉱石、原油・ガス価格の下落を主因に、920億円の減益
- ・ 持分法利益：IPP事業(一過性損失)、カセロネス(固定資産減損)、JAL-MIMI(価格下落)を主因に、613億円の減益
- ・ 受取配当金：LNGプロジェクトからの配当減を主因に、476億円の減少

＜事業分野別＞ 金属＋エネルギー 3,055億円：同▲2,237億円
 その他 1,635億円：同 +273億円(主に化学品＋386億円)



* 売上総利益＋販売費及び一般管理費＋受取配当金＋持分法による投資利益＋減価償却費及び無形資産等償却費
 四捨五入により合計が合わない箇所があります。

COPYRIGHT © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

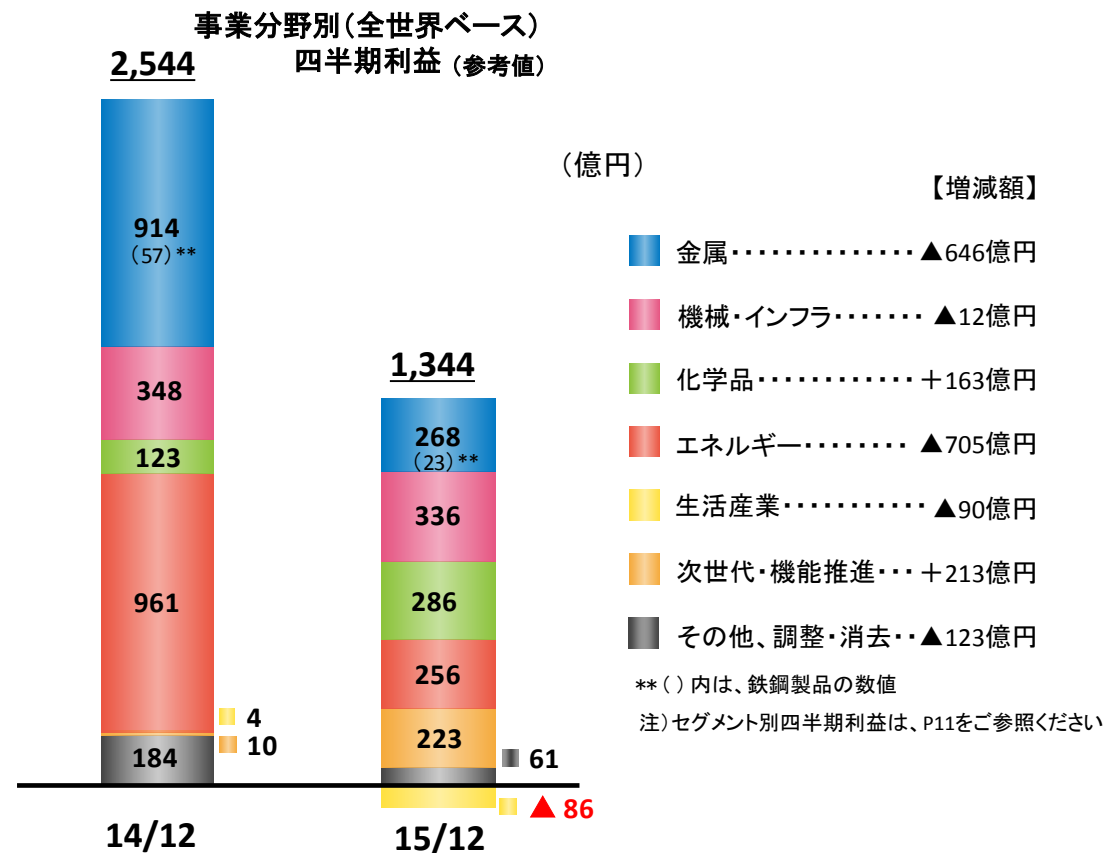
** 海外セグメント業績を事業分野別に組替え算出した
 全世界ベースでの参考データ

2016年3月期第3四半期 経営成績

◆ 四半期利益* 1,344億円：前年同期比 ▲1,200億円

◆ 主な事業分野の前年同期比増減

- エネルギー（四半期利益256億円）： ▲705億円（LNGプロジェクトからの受取配当金減、MEPME固定資産除却損）
- 金属（同268億円）： ▲646億円（鉄鉱石価格下落、カセロネス固定資産減損）
- 次世代・機能推進（同223億円）： +213億円（Hutchison China MediTechの公正価値評価益）
- 化学品（同286億円）： +163億円（Novusの好調）



* 本資料では第3四半期累計の「四半期利益(親会社の所有者に帰属)」を「四半期利益」と表記しています。

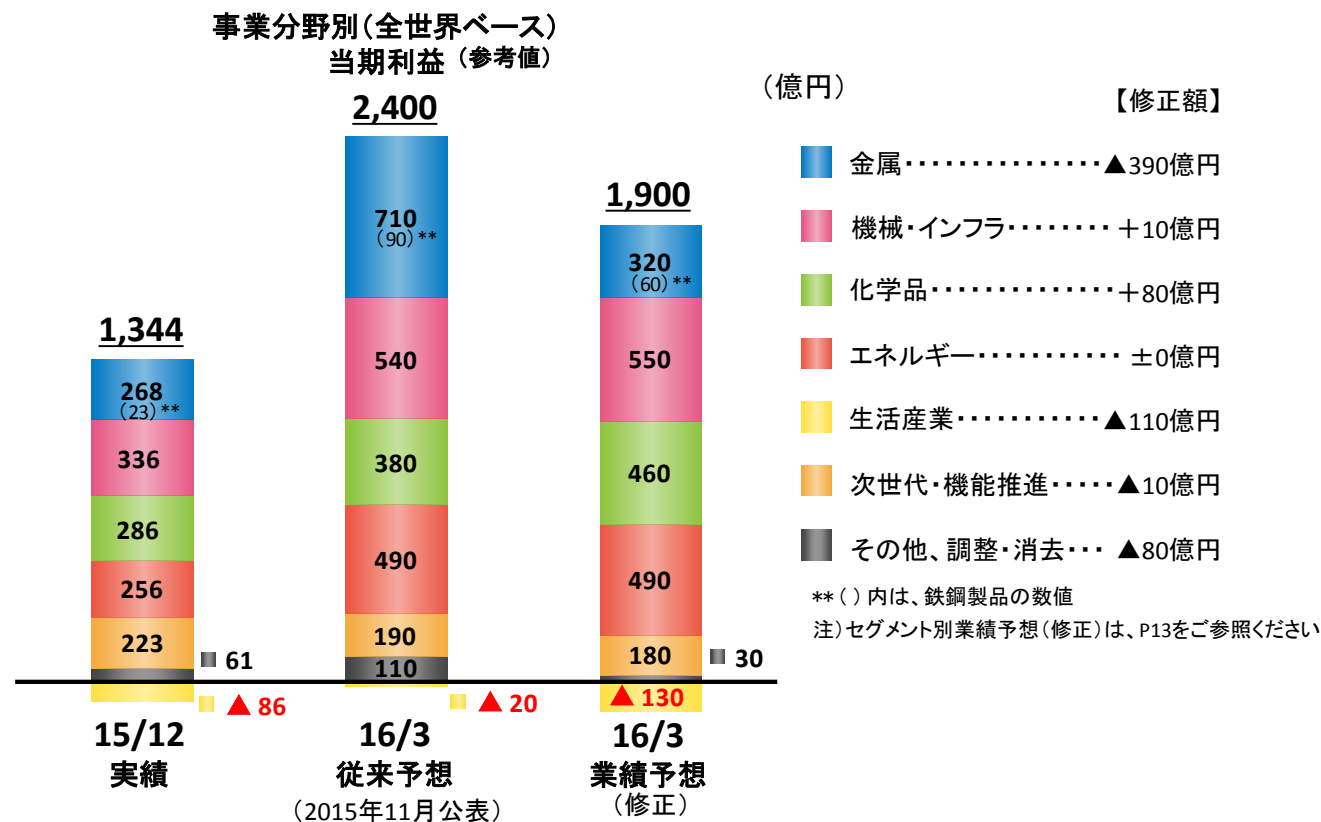
2016年3月期 業績予想(修正)

◆ EBITDA：従来予想6,600億円から5,800億円に修正。以下主な要因：

- ・ 売上総利益 : ▲300億円 鉄鉱石、原油・ガス価格
- ・ 持分法による投資利益 : ▲500億円 カセロネス(固定資産減損)、Valepar(為替、価格)

◆ 当期利益*：同2,400億円から1,900億円に修正。以下主な事業分野別の修正額：

- ・ 金属 : ▲390億円 カセロネス、鉄鉱石・銅価格等
- ・ 生活産業 : ▲110億円 Multigrain等
- ・ 化学品 : +80億円 基礎化学品関連事業売却等



* 本資料では当連結会計年度の「当期利益(親会社の所有者に帰属)」を「当期利益」と表記しています。

2016年3月期第3四半期 キャッシュ・フロー アロケーション

- ◆ 基礎営業キャッシュ・フローは、原油・ガス価格や鉄鉱石価格の下落を主因に減少したものの、全体としては約4,200億円の獲得となり、堅調なキャッシュ創出力を維持した
- ◆ 資産リサイクルを着実に実行し、約1,450億円を獲得。基礎営業キャッシュ・フローと合わせた資金獲得は約5,650億円
- ◆ 投融資は、既存事業 + パイプライン案件を中心に約4,250億円を実行

<実績概数>

(単位：億円)

主要セグメント・案件

基礎営業 キャッシュ・フロー		+4,200	エネルギー：+1,700(前年同期比▲1,150)、金属資源：+1,140(同▲120) 機械・インフラ：+550(同+40)、海外：+470(同+200)	
資産リサイクル		+1,450	FPSO貸付金回収、米電解事業、国内不動産	
投融資合計		▲4,250	既存事業+パイプライン案件 ▲2,450	新規事業 ▲1,800
(内訳)	鉄鋼製品	▲150	風力発電用タワー製造	
	金属資源	▲350	豪州鉄鉱石港湾・インフラ拡張	
	機械・インフラ	▲950	ブラジルガス配給、ブラジル旅客鉄道	
	化学品	▲200	米メタノール製造	
	エネルギー	▲1,250	タイ沖、中東石油・ガス事業開発、米シェールオイル・ガス開発	
	生活産業	▲450	アジア・オセアニア医薬情報サービス、米医薬開発ファンド	
	次世代・機能推進	▲250	インドテレビショッピング、アフリカ高速モバイルデータ通信	
	海外	▲650	チリサーモン養殖・加工、米タンクターミナル拡張	

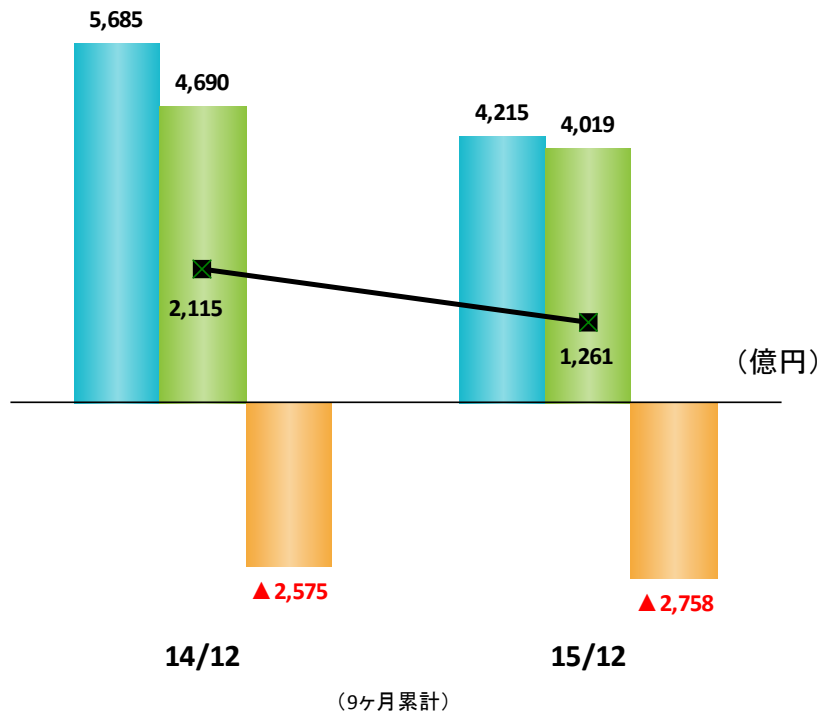
青字は、新たに取り組みを開始した投資案件。黒字は第2四半期以前より継続して投資を実行している案件。

キャッシュ・フロー、バランスシート

キャッシュ・フロー

- ◆ 基礎営業キャッシュ・フロー*は4,215億円（前年同期比▲1,470億円）
- ◆ フリーキャッシュ・フローは1,261億円の黒字（同▲854億円）

■ 基礎営業キャッシュ・フロー ■ 営業キャッシュ・フロー ■ 投資キャッシュ・フロー ■ フリーキャッシュ・フロー



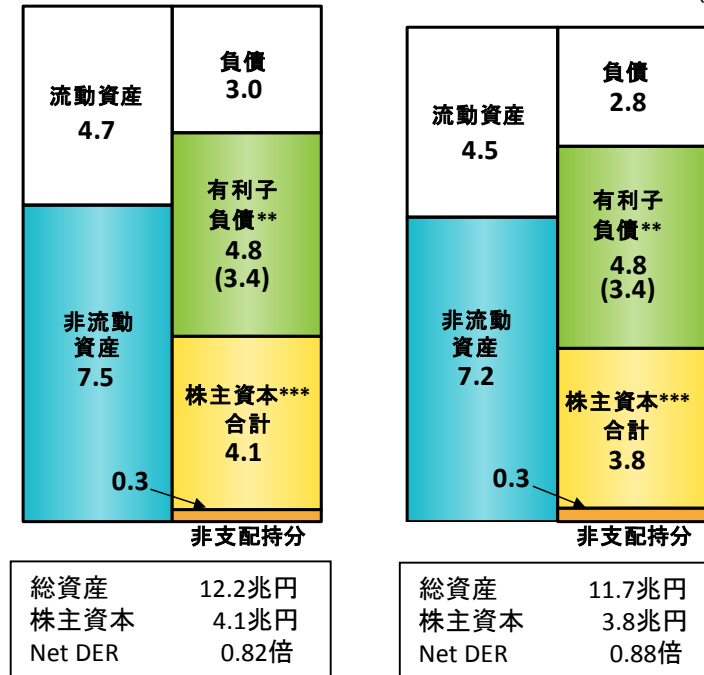
*営業活動に係るCF－運転資本の増減に係るCF

バランスシート

15/3

15/12

(兆円)



<株主資本の主な増減要因(2015年3月末比▲2,533億円)>

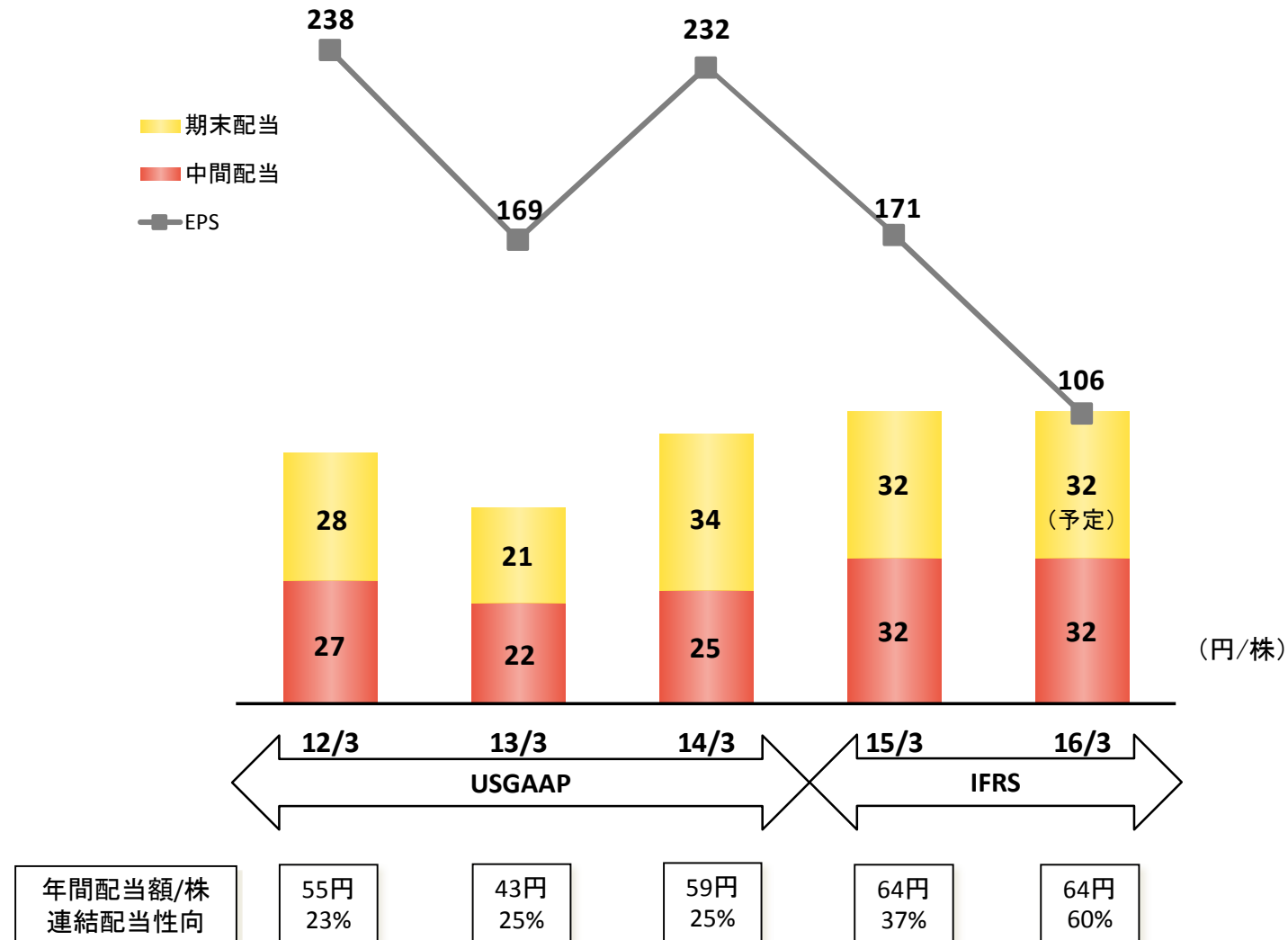
- ・ 四半期利益の積み上がり : +1,344億円
- ・ 外貨換算調整勘定 : ▲1,169億円
- ・ FVTOCIの金融資産 : ▲1,681億円
- ・ 配当金の支払 : ▲1,147億円
- ・ その他 : +120億円

** 有利子負債のカッコ内数字は、ネット有利子負債

*** 本資料では「親会社の所有者に帰属する持分」を、株主資本と表記しています。

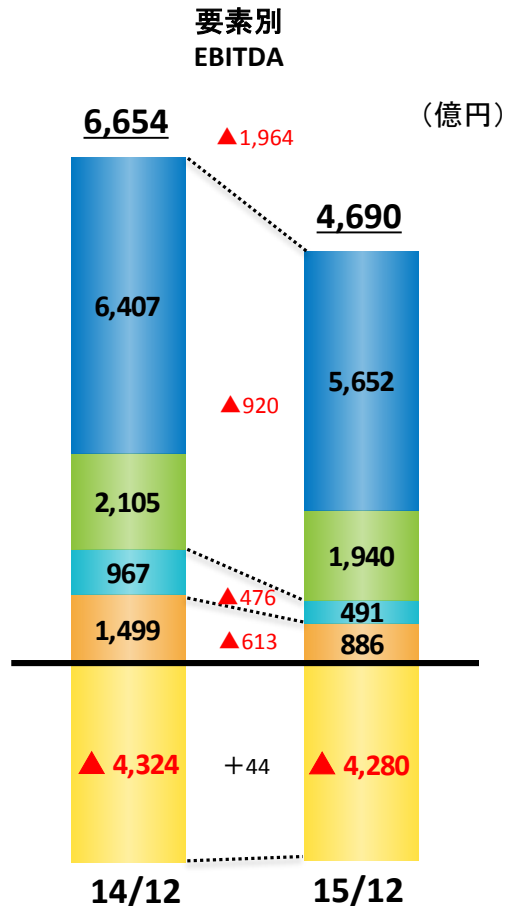
2016年3月期 配当予想

- ◆ 予想年間配当金は、当期利益1,900億円を前提に、EBITDA、基礎営業キャッシュ・フロー状況並びに配当金額の安定性・継続性を総合的に勘案し、1株あたり64円を据え置き(前期比増減なし、連結配当性向60%)
- ◆ 中間配当金として、1株あたり32円を支払済み



補足説明

2016年3月期第3四半期 EBITDAの前年同期比増減



売上総利益 5,652億円 } 前年同期比 ▲920億円 (▲11%)
 減価償却費及び無形資産等償却費 1,940億円

- ↓ エネルギー：▲805億円(石油・ガス生産事業 ▲875億円(内、米シェール事業 ▲296億円))
- ↓ 金属資源：▲354億円(豪州鉄鉱石事業 ▲406億円：鉄鉱石価格の下落)
- ↑ 海外：+252億円(Novus +321億円：メチオニン価格の上昇)

受取配当金 491億円 前年同期比 ▲476億円 (▲49%)

- ↓ LNGプロジェクト：▲452億円

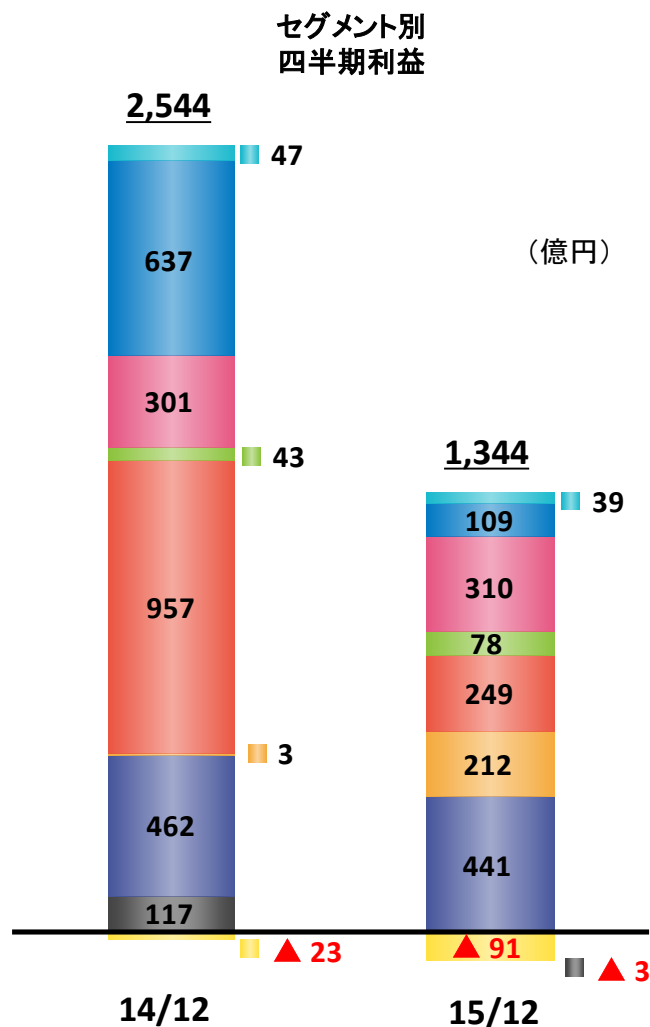
持分法による投資利益 886億円 前年同期比 ▲613億円 (▲41%)

- ↓ IPP事業：一過性損失計上を主因に ▲222億円
- ↓ MLCC(カセロネス)：固定資産の減損を主因に ▲222億円
- ↓ Japan Australia LNG (MIMI)：原油価格の下落により減益
- ↓ Robe River Mining Co (MIOD)：鉄鉱石価格の下落により ▲94億円
- ↑ Acrux(アングロスール)：前年同期チリ税制改正の反動増により +111億円

販売費及び一般管理費 ▲4,280億円 前年同期比 +44億円 (+1%)

2016年3月期第3四半期 セグメント別四半期利益の前年同期比増減

(数値は税後)



■ エネルギー 249億円 前年同期比 ▲708億円 (▲74%)

- ↓ LNGプロジェクトからの受取配当金減 ▲452億円
- ↓ MEPMEは、固定資産の除却損を主因に ▲341億円

■ 金属資源 109億円 前年同期比 ▲528億円 (▲83%)

- ↓ 豪州鉄鉱石事業は、為替変動やコスト減の一方、鉄鉱石価格下落により ▲236億円*
- ↓ カセロネスは、固定資産の減損を主因に ▲222億円

■ 生活産業 ▲91億円 前年同期比 ▲68億円 (－)

- ↓ Multigrainは、税金関連費用や固定資産の減損を主因に ▲176億円
- ↑ 三井物産都市開発は、国内不動産売却を主因に +70億円
- ↑ 前年同期一過性の反動増や食用油脂製品・プロイラー事業の好調等

■ 次世代・機能推進 212億円 前年同期比 +209億円 (－)

- ↑ Hutchison China MediTech株式の公正価値評価益 +128億円
- ↑ りらいあコミュニケーションズ株式の過年度減損の戻入れ +62億円

■ 化学品 78億円 前年同期比 +35億円 (+81%)

- ↑ 基礎化学品関連事業における前年同期損失の反動増(当期撤退)
- ↑ 燐砒石事業は、価格の上昇、コスト減により +18億円
- ↓ 前年同期KPA資産譲渡に伴う一過性利益の反動減 ▲31億円

■ 海外 441億円 前年同期比 ▲21億円 (▲5%)

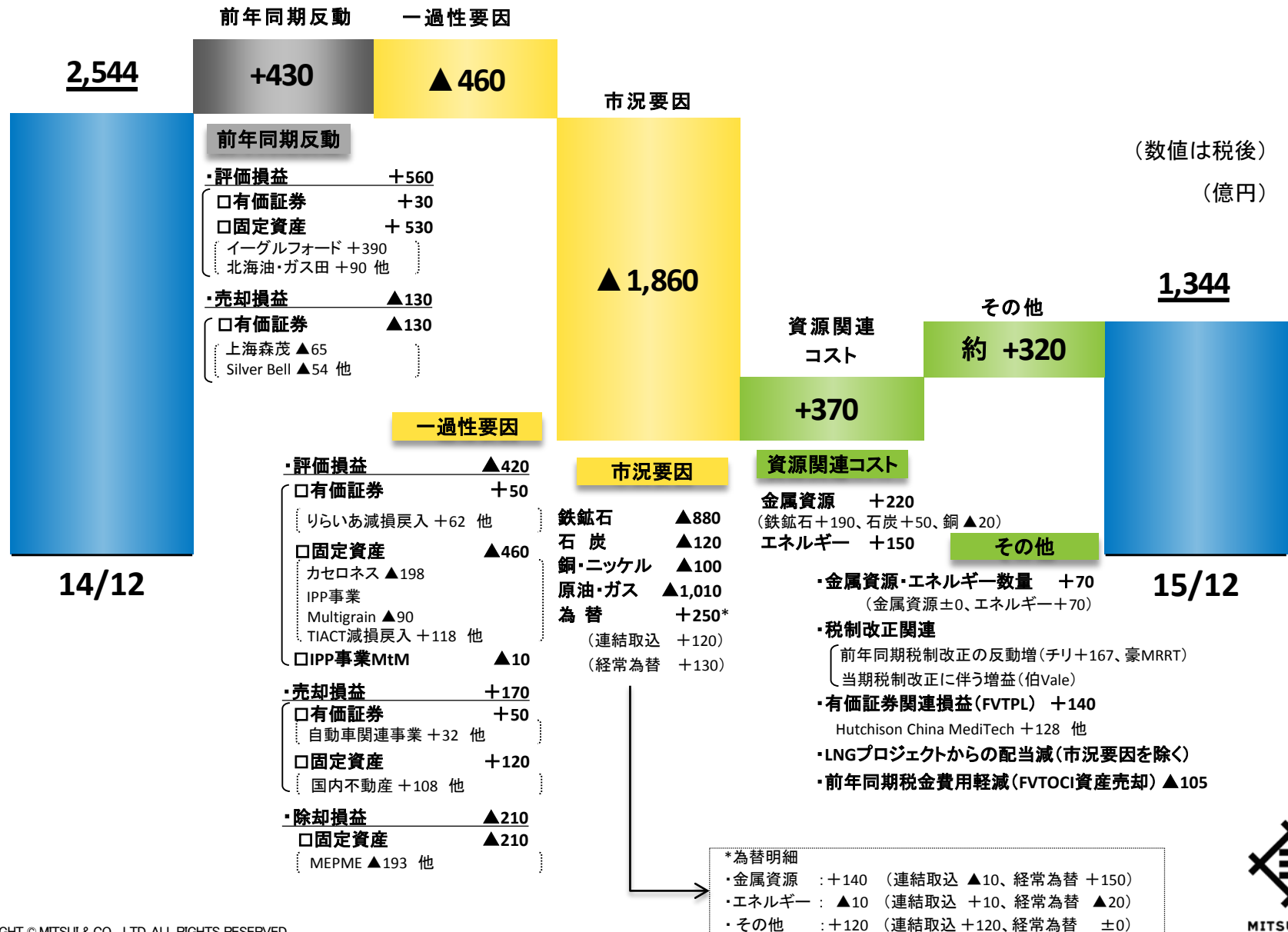
■ 鉄鋼製品 39億円 前年同期比 ▲8億円 (▲17%)

■ 機械・インフラ 310億円 前年同期比 +9億円 (+3%)

■ その他、調整・消去 ▲3億円 前年同期比 ▲120億円 (－)

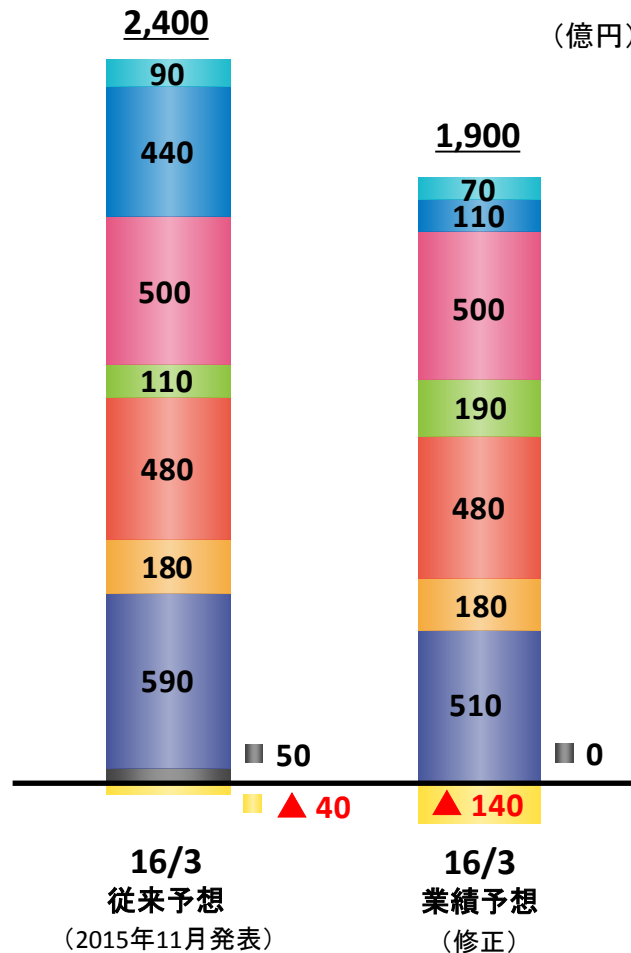
- ↓ 前年同期税金費用軽減(FVTOCI資産売却)の反動 ▲105億円

2016年3月期第3四半期 前年同期比 増減要素



2016年3月期 セグメント別業績予想(修正)

セグメント別
当期利益



■ 金属資源 110億円 従来予想比 ▲330億円

- ↓ カセロネスの固定資産減損
- ↓ 鉄鉱石、銅価格の下落

■ 生活産業 ▲140億円 従来予想比 ▲100億円

- ↓ Multigrain

■ 海外 510億円 従来予想比 ▲80億円

- ↓ 米州:税金費用の増加、油井管の取扱数量減
- ↓ アジア・大洋州:鉄鉱石価格の下落

■ エネルギー 480億円 従来予想比 ±0億円

- ↑ 一過性利益の計上
- ↓ MEPMEの固定資産除却損

■ 化学品 190億円 従来予想比 +80億円

- ↑ 基礎化学品関連事業売却

■ 鉄鋼製品 70億円 従来予想比 ▲20億円

■ 機械・インフラ 500億円 従来予想比 ±0億円

■ 次世代・機能推進 180億円 従来予想比 ±0億円

■ その他、調整・消去 0億円 従来予想比 ▲50億円

Appendix

2016年3月期 連結業績予想における前提条件及び感応度

価格変動の16/3期当期利益への影響額 (2015年5月公表)			16/3従来予想 (2015年11月公表)	16/3 3Q累計 (実績)	16/3 4Q (前提)	16/3通期予想 (3Q累計・4Q平均値) (2016年2月公表)
市況商品	原油/JCC	27 億円 (US\$1/バレル)	57	55	35	50
	連結油価 (*1)		58	57	43	54
	米国ガス (*2)	8 億円 (US\$0.1/mmBtu)	2.89	2.76(*3)	2.22(*4)	2.63
	鉄鉱石	30 億円 (US\$1/トン)	(*5)	53(*6)	(*5)	(*5)
	銅	10 億円 (US\$100/トン)	5,817	5,707(*7)	4,887	5,501
為替 (*8)	米ドル	18 億円 (¥1/米ドル)	120.86	121.63	120.00	121.22
	豪ドル	8 億円 (¥1/豪ドル)	87.95	89.71	85.00	88.54
	伯リアル	3 億円 (¥1/伯リアル)	33.23	34.81	30.00	33.61

(*1) 原油価格は0～6ヶ月遅れで当社連結業績に反映されるため、この期ずれを考慮した連結業績に反映される原油価格を連結油価として推計している。
16/3期には34%が4～6カ月遅れで、38%が1～3カ月遅れで、28%が遅れ無しで反映されると想定される。

(*2) 当社が米国で取り扱う天然ガスはその多くがHenry Hub (HH) に連動しない為、上記感応度はHH価格の変動に対する感応度ではなく、加重平均ガス販売価格に対する感応度。

(*3) 米国ガスの16/3期3Q累計実績欄には、2015年1月～9月のNYMEXにて取引されるHenry Hub Natural Gas Futuresの直近限月終値のdaily平均値を記載。

(*4) HH連動の販売価格は、HH価格US\$2.22/mmBtuを前提として使用している。

(*5) 鉄鉱石の前提価格は非開示。

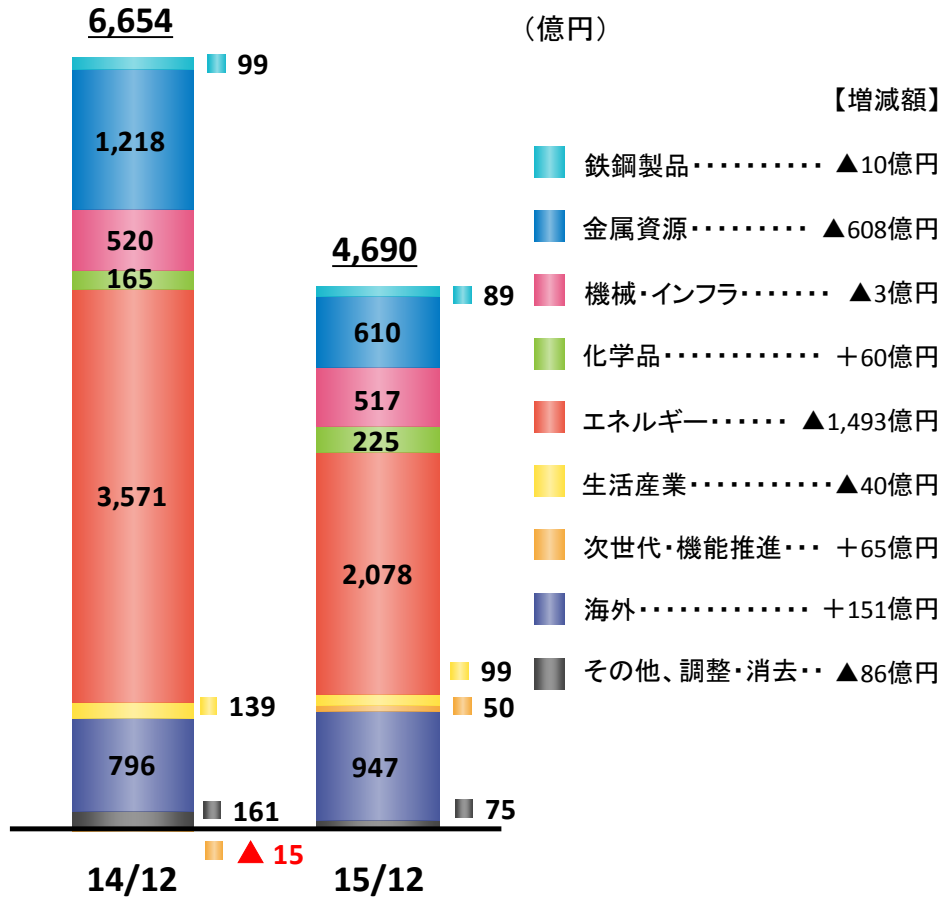
(*6) 鉄鉱石の16/3期3Q累計実績欄には、2015年4月～12月の複数業界紙によるスポット価格指標Fe 62% CFR North Chinaのdaily平均値(参考値)を記載。

(*7) 銅の16/3期3Q累計実績欄には、2015年1月～9月のLME cash settlement priceのmonthly averageの平均値を記載。

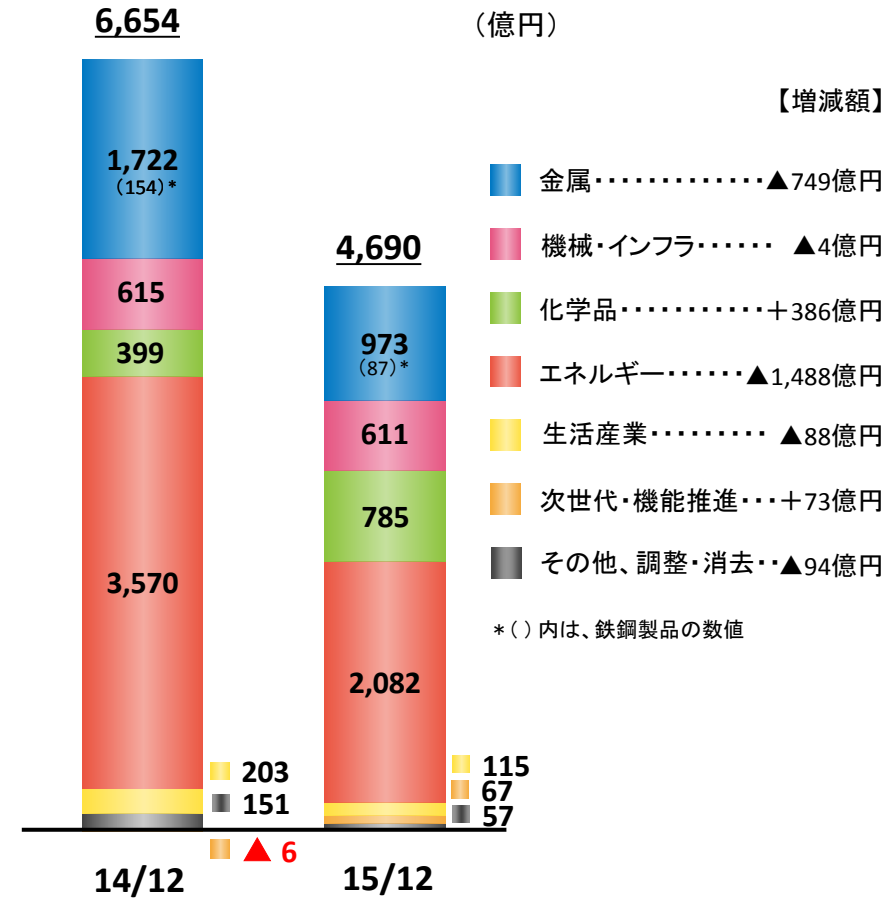
(*8) 各国所在の関係会社が報告する機能通貨建て当期利益に対する感応度。円安は機能通貨建て当期利益の円貨換算を通じて増益要因となる。
金属資源・エネルギー生産事業における販売契約上の通貨である米ドルと機能通貨の豪ドル・伯リアルの為替変動、及び為替ヘッジによる影響を含まない。

2016年3月期第3四半期 EBITDA 前年同期比増減

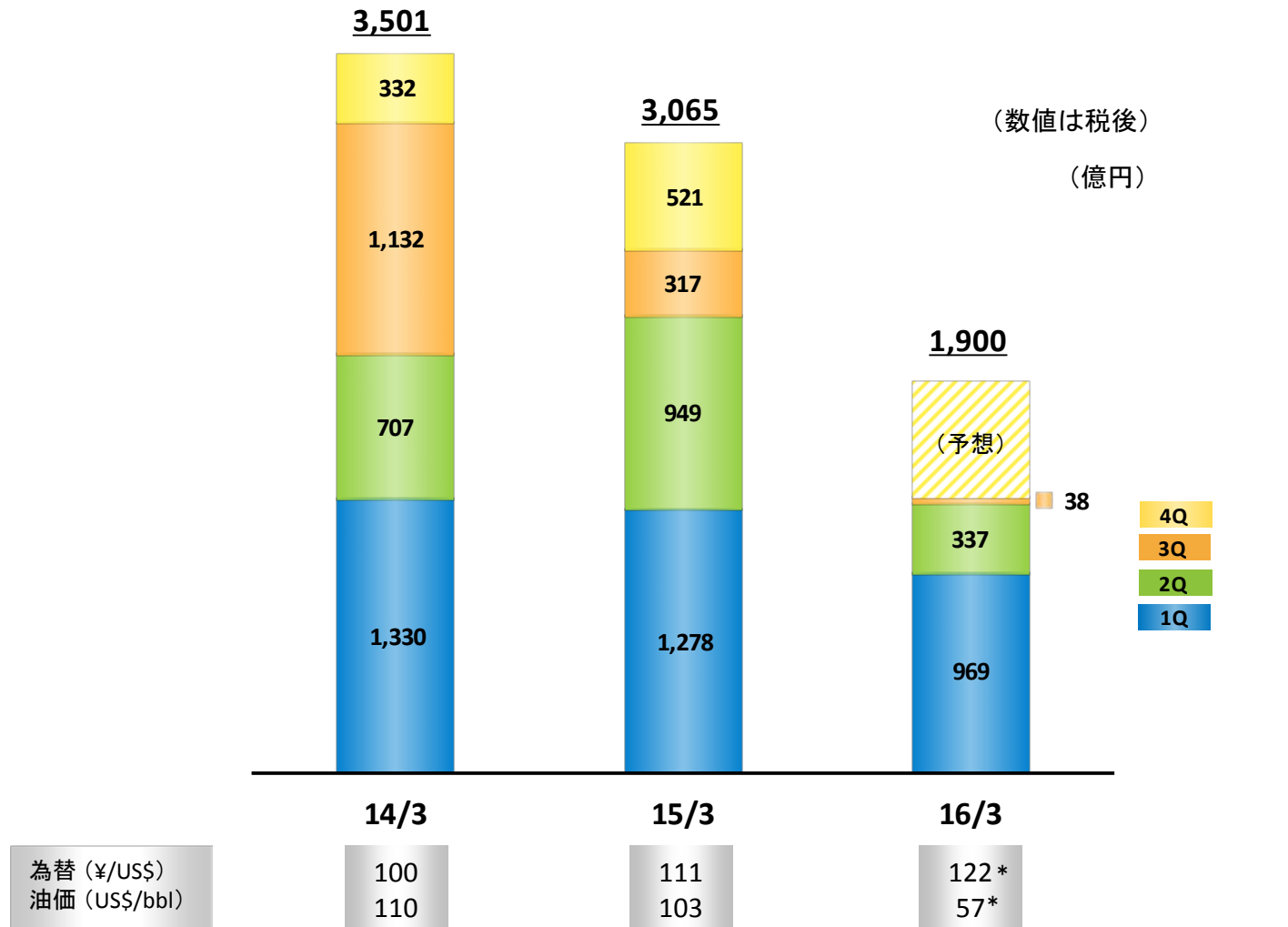
セグメント別
EBITDA



事業分野別(全世界ベース)
EBITDA (参考値)



四半期利益の推移



*第3四半期9ヶ月平均値

中国向け鉄鉱石スポット価格推移 (参考値*)



* 業界紙複数社によるスポット指標平均

当社持分権益出荷量実績

	15/3期 1Q	15/3期 2Q	15/3期 3Q	15/3期 4Q	15/3期 累計	16/3期 1Q	16/3期 2Q	16/3期 3Q	16/3期 累計
鉄鉱石 (百万トン)	13.2	13.8	13.9	13.9	54.8	13.4	14.3	14.6	42.3
MIOD	7.9	8.0	8.1	7.4	31.4	7.5	7.9	8.1	23.4
MII	1.9	1.9	1.9	2.0	7.7	2.2	2.3	2.2	6.7
Vale*	3.4	3.8	3.9	4.5	15.6	3.7	4.2	4.3	12.2
石炭 (百万トン)**	2.9	3.2	3.4	3.0	12.6***	3.2	3.3	3.0	9.5
MCH	2.3	2.5	2.3	2.3	9.4	2.7	2.9	2.6	8.2
BMC*	0.4	0.4	0.5	0.4	1.7	0.4	0.5	0.4	1.4
原料炭	2.1	2.0	2.0	1.9	8.0	2.1	2.4	2.3	6.8
一般炭	0.6	0.9	1.0	0.8	3.1	1.0	1.0	0.7	2.7
銅 (千トン)*/**	29.1	25.7	26.2	27.0	108.1	25.4	28.3	28.6	82.3

* Vale、BMC及び銅は1Q:1-3月、2Q: 4-6月、3Q: 7-9月、4Q: 10-12月の実績

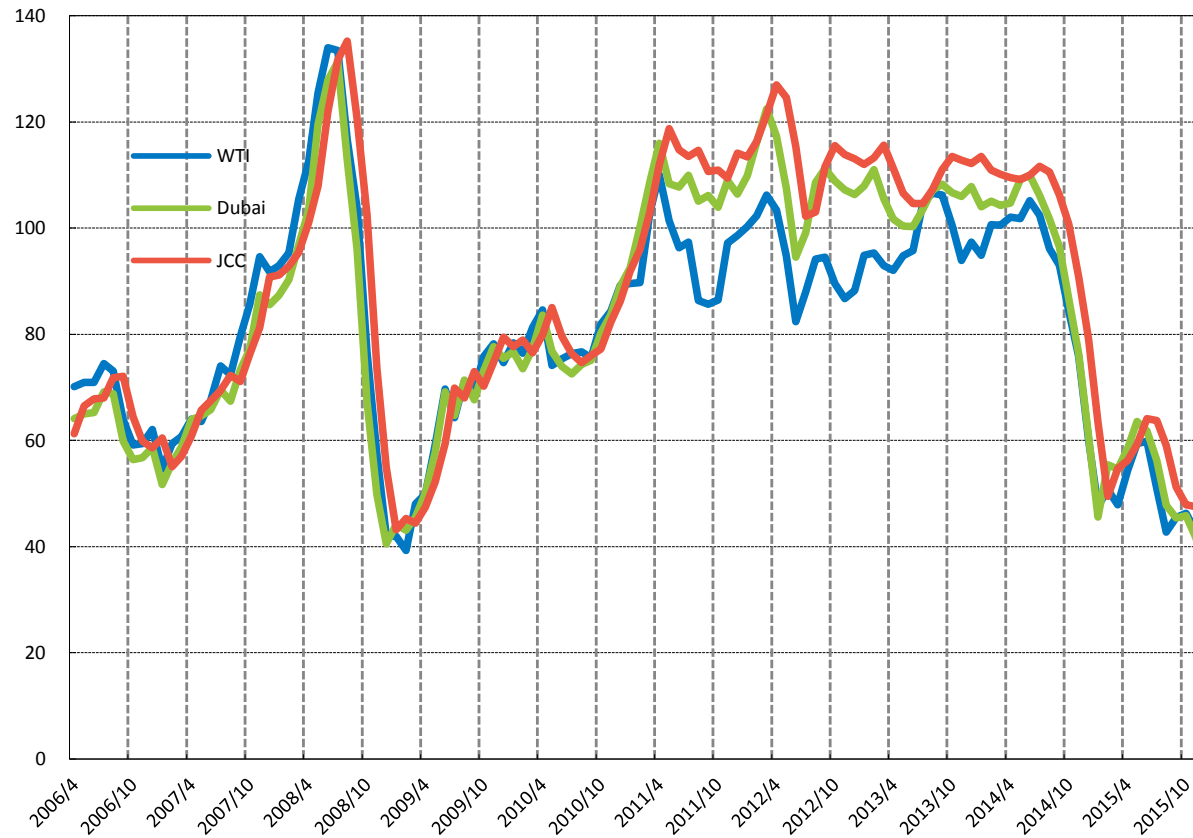
** Vale出荷分の5%を含む。

*** 2015年8月修正(12.3→12.6)

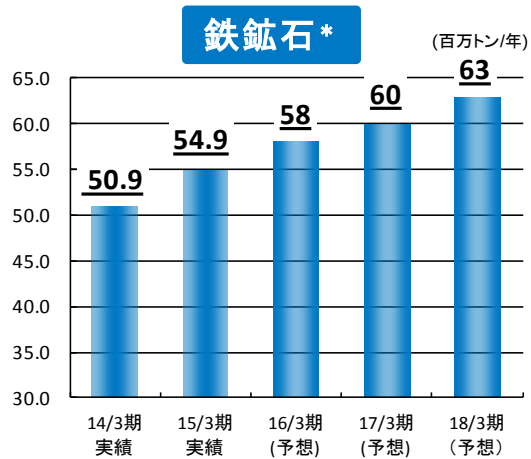
※四捨五入により合計が合わない箇所があります。

原油価格推移

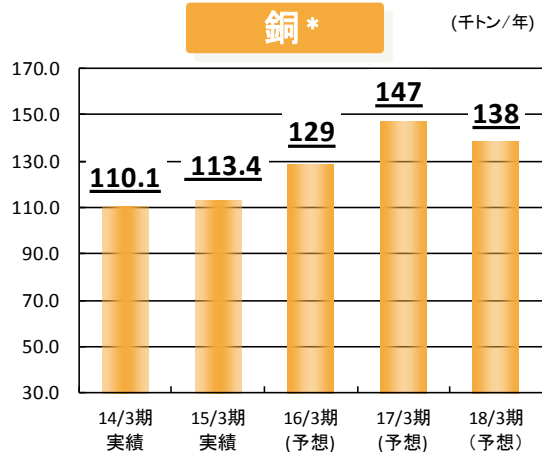
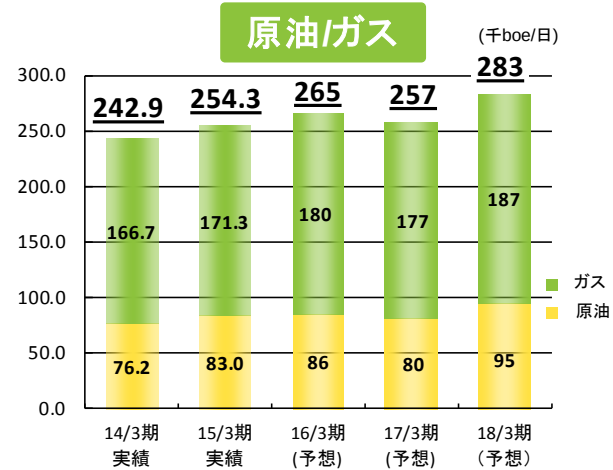
US\$/バレル



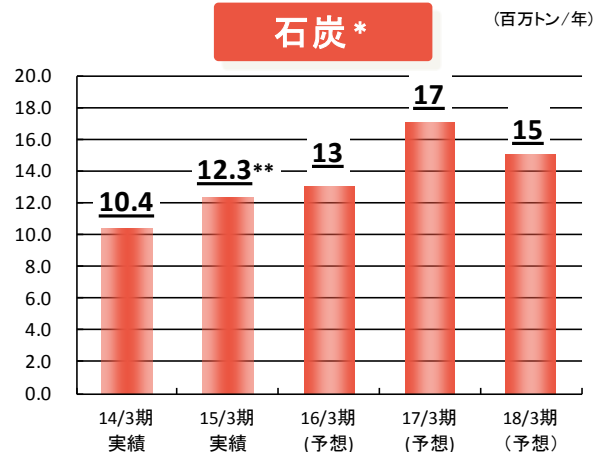
当社持分権益生産量 (2015年5月公表)



* ヴァーレ社生産分の5%を含む



* ヴァーレ社生産分の5%を含む

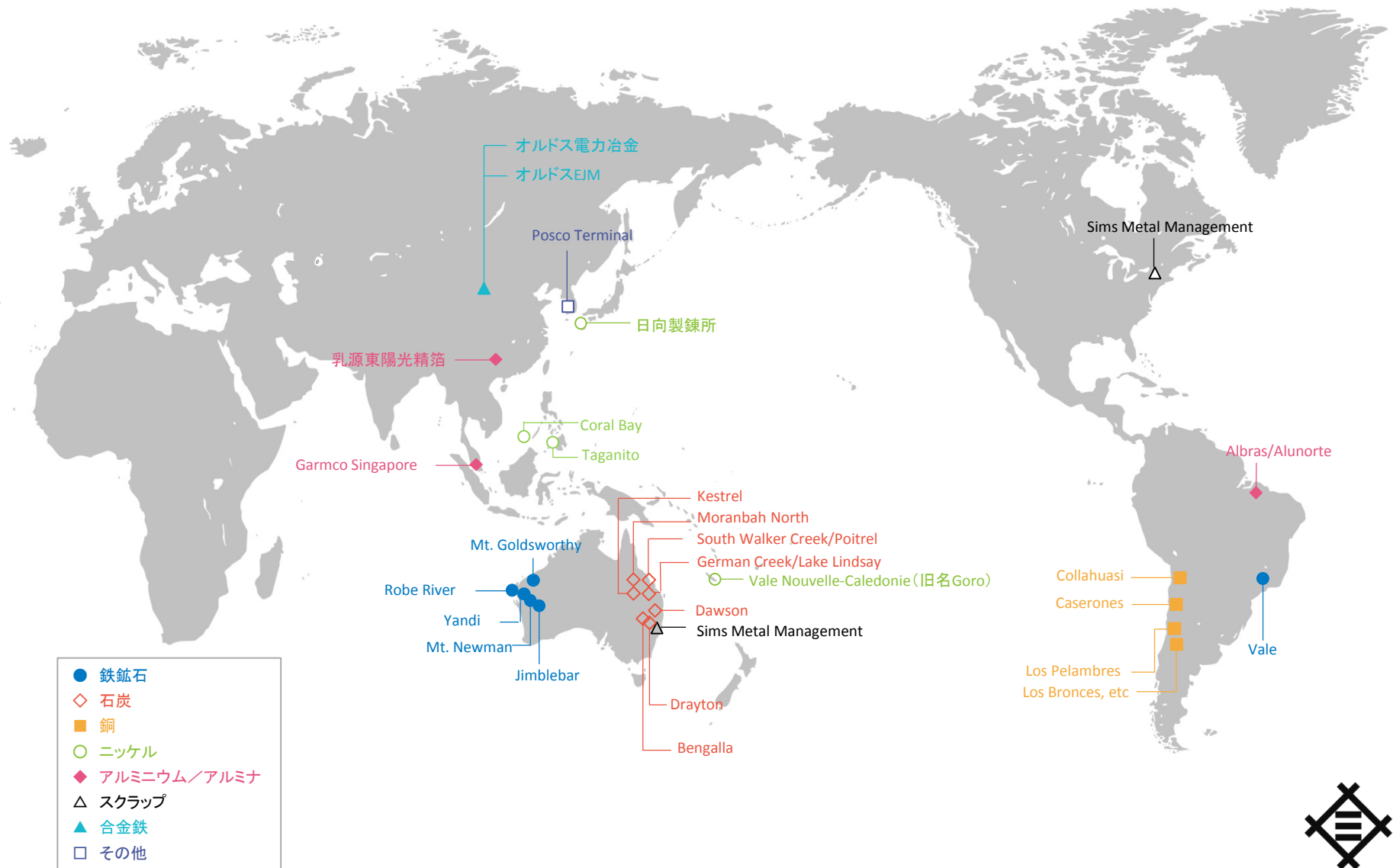


* 2015年3月期からヴァーレ社生産分の5%を含む

** 2015年8月修正 (12.9→12.3)

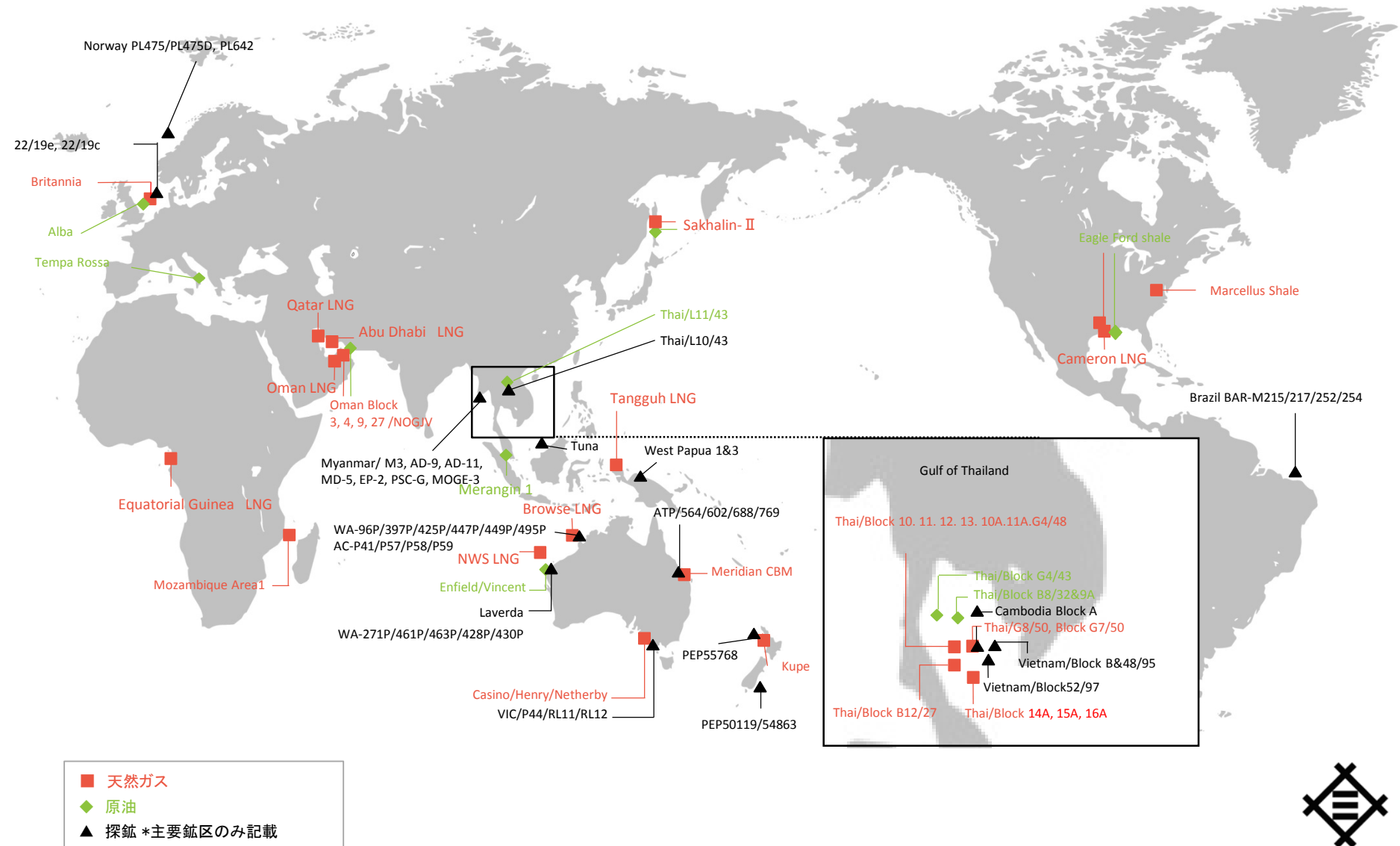
金属資源の主なプロジェクト

2015年12月末現在



エネルギーの主な上・中流権益

2015年12月末現在



原油・ガスの主な上・中流権益

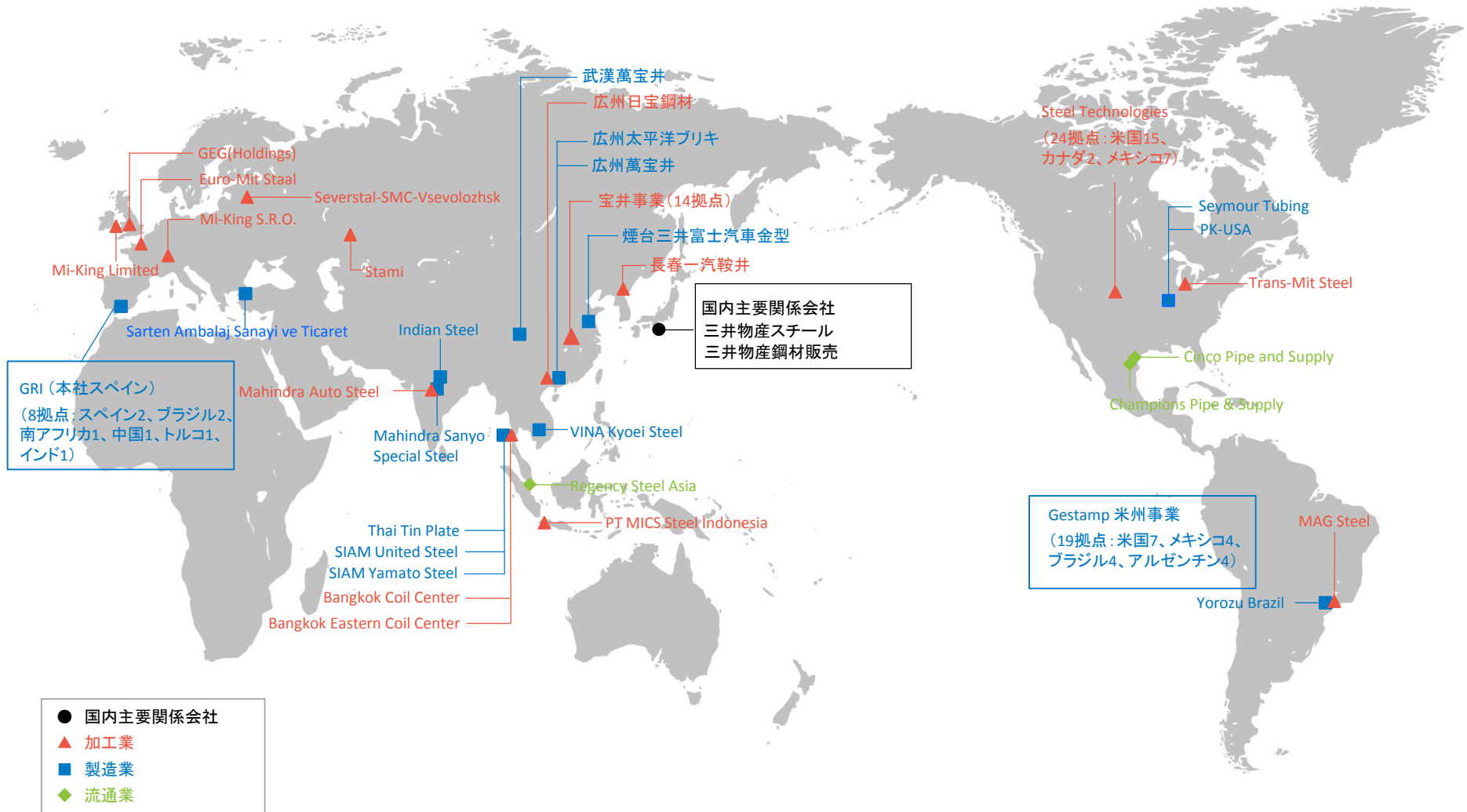
2015年12月末現在



*1 既発見未開発鉱区 *2 一部生産段階移行済

鉄鋼製品の主な事業投資

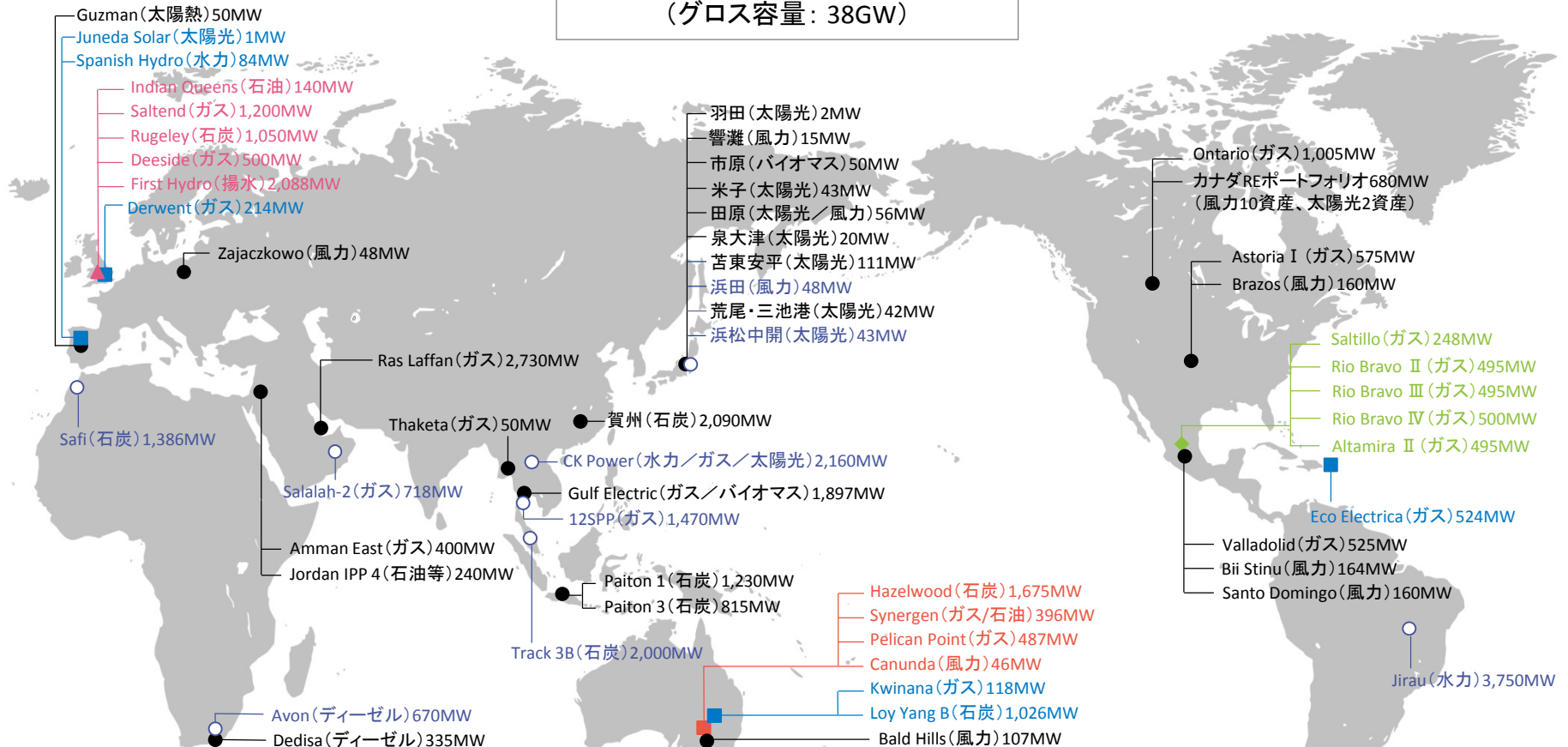
2015年12月末現在



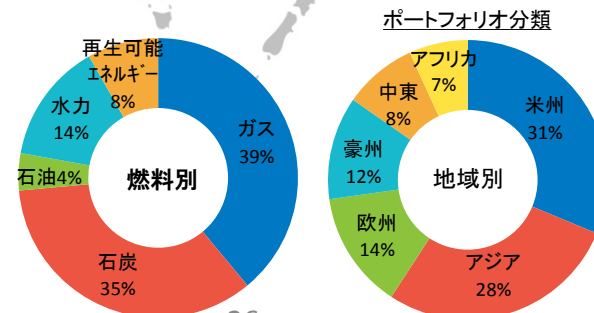
発電事業ポートフォリオ

2015年12月末現在

当社持分発電容量(ネット): 9.8GW
(グロス容量: 38GW)

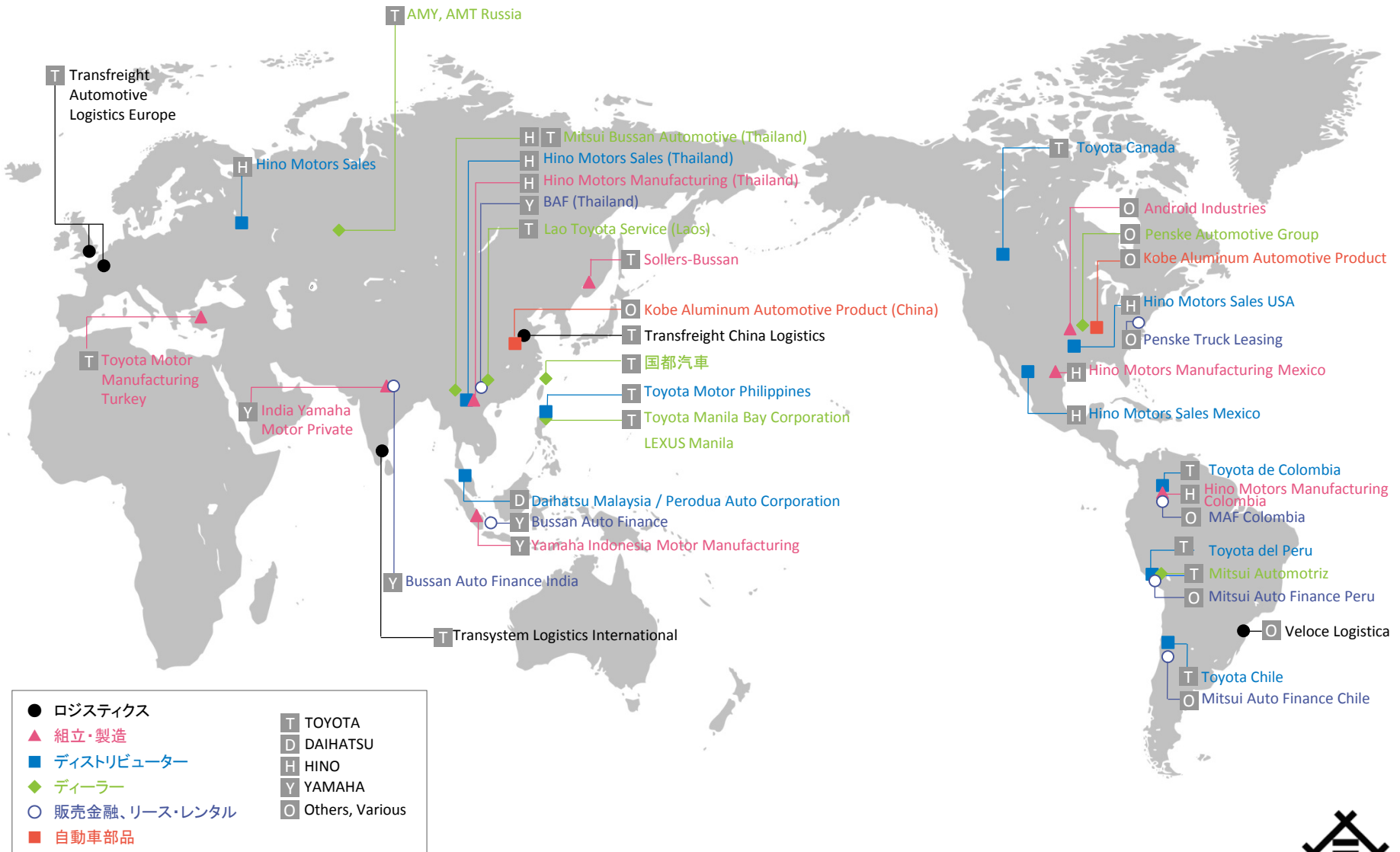


- ▲ IPM (UK) Power社保有資産
- IPM Eagle社保有資産
- ◆ MT Falcon保有資産
- IPAH保有資産
- その他
- 建設中発電所



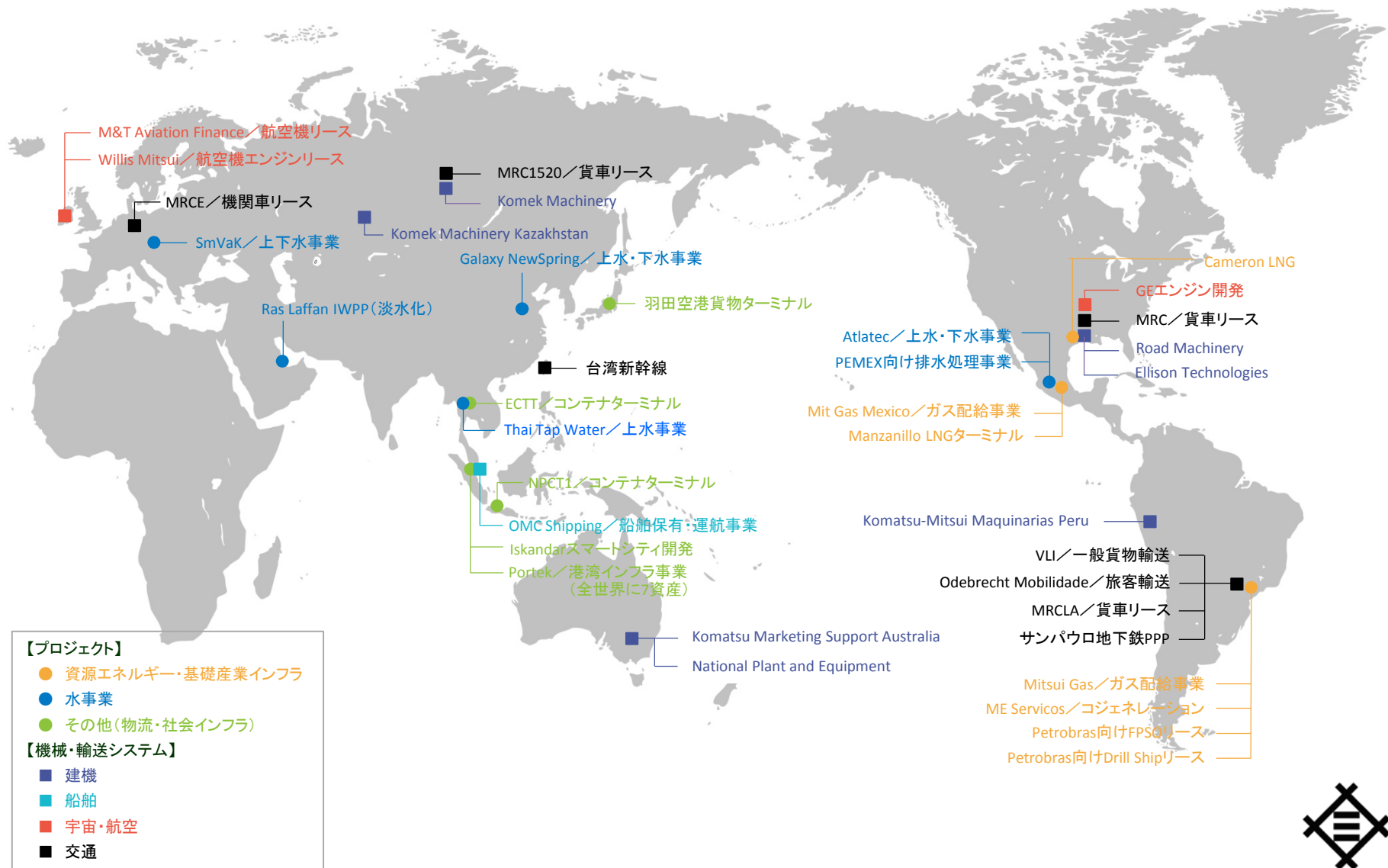
自動車事業ポートフォリオ

2015年12月末現在



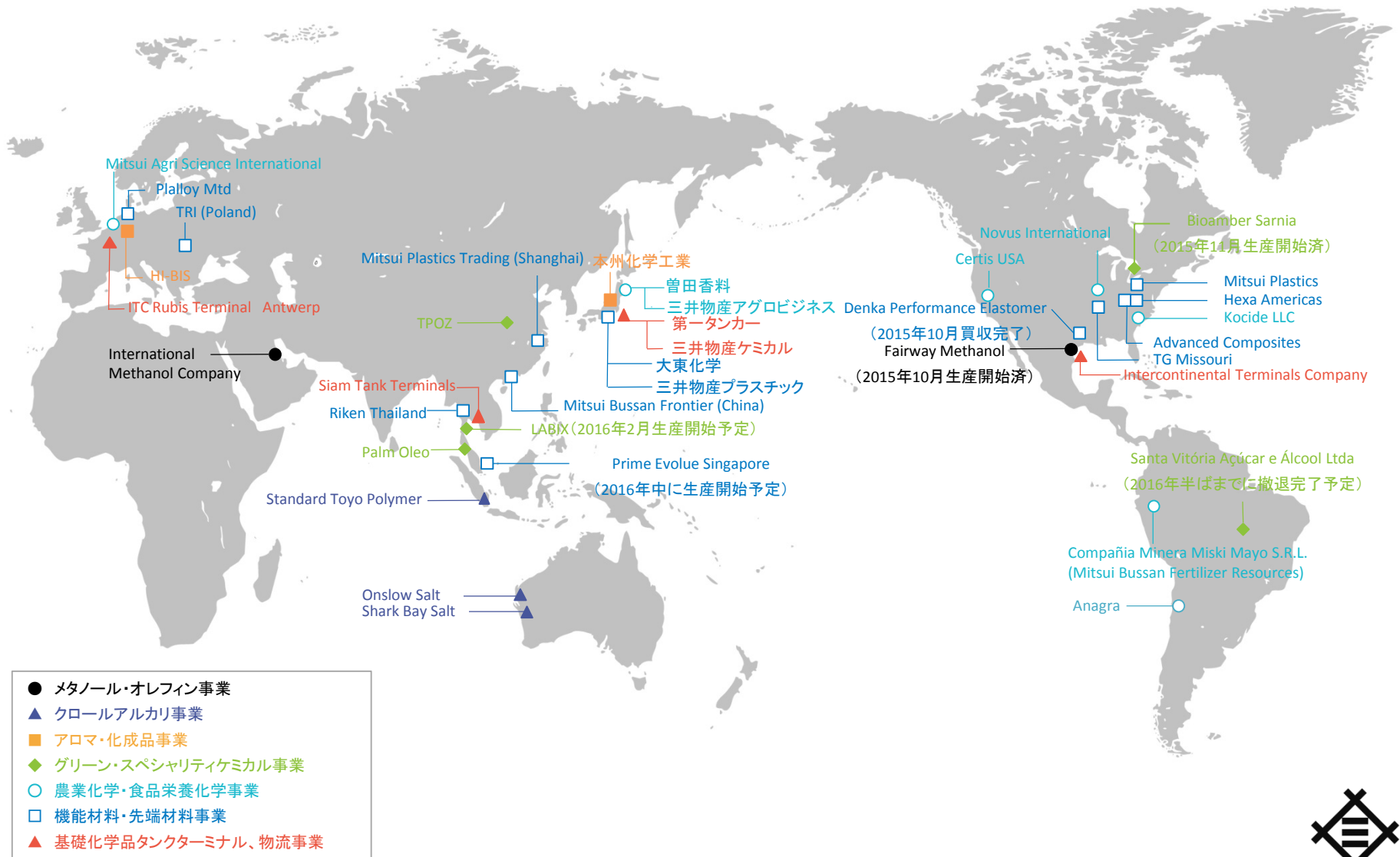
その他の主な機械・インフラ事業

2015年12月末現在



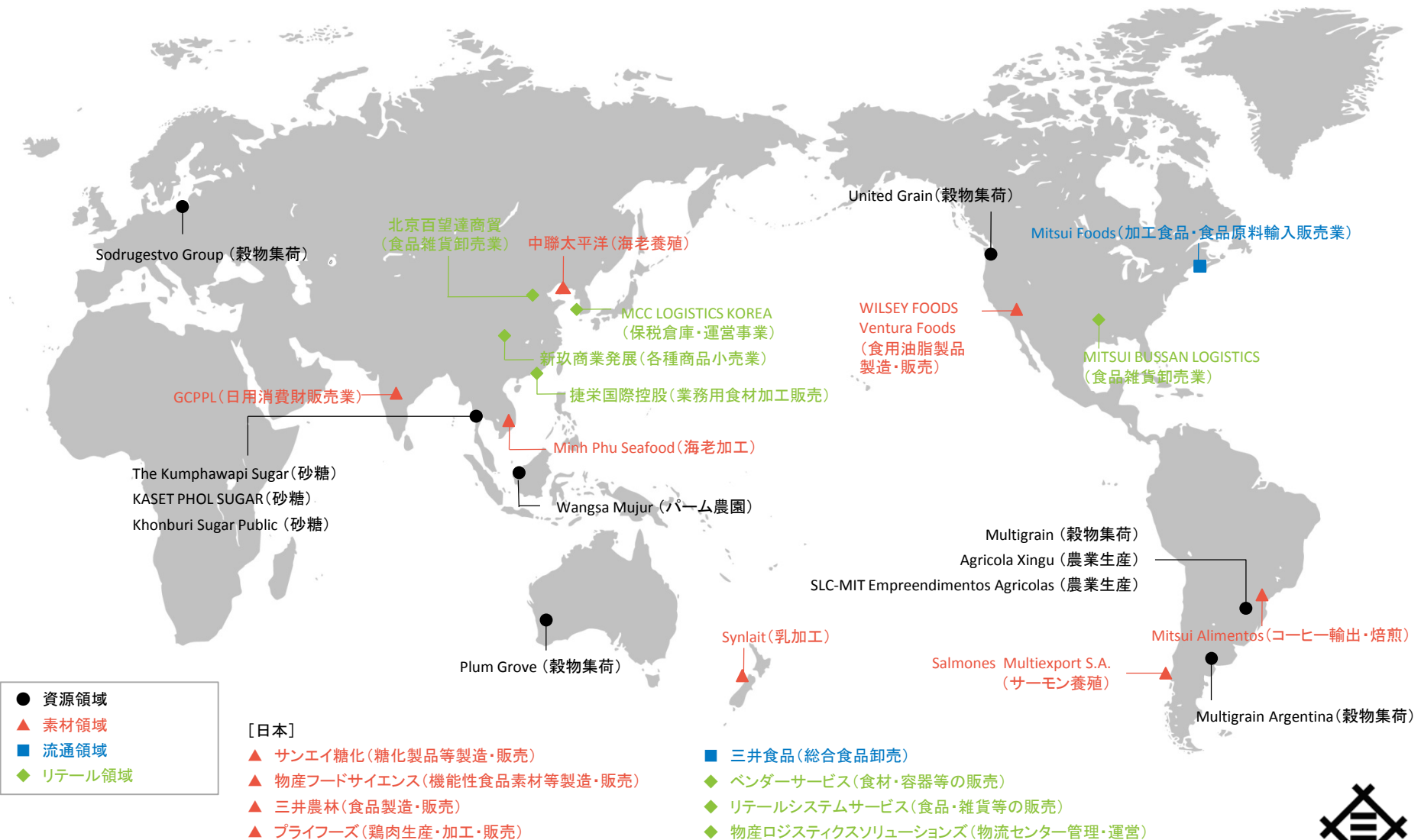
化学品の主な事業投資

2015年12月末現在



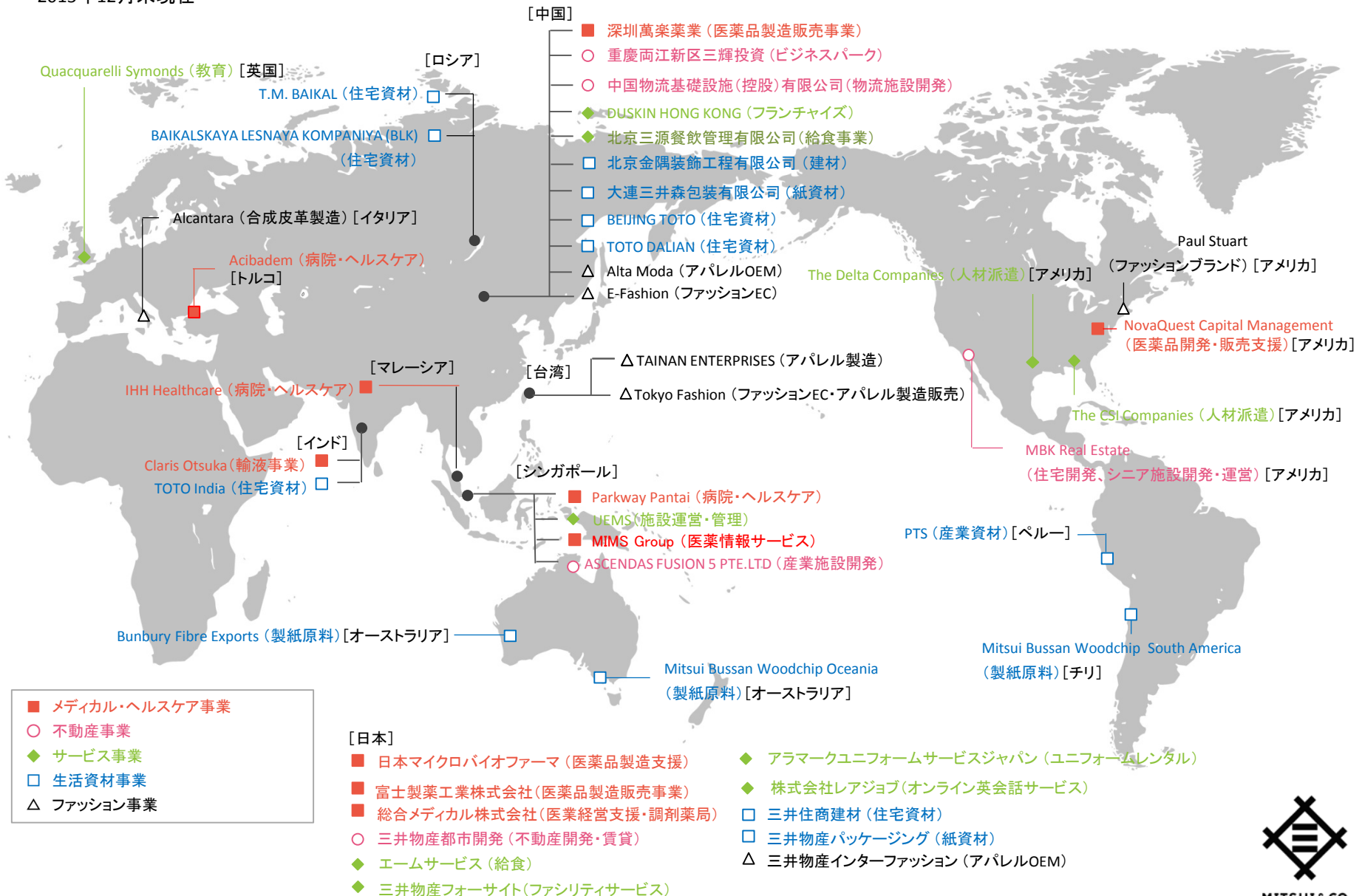
食糧・食品事業の主な事業投資

2015年12月末現在



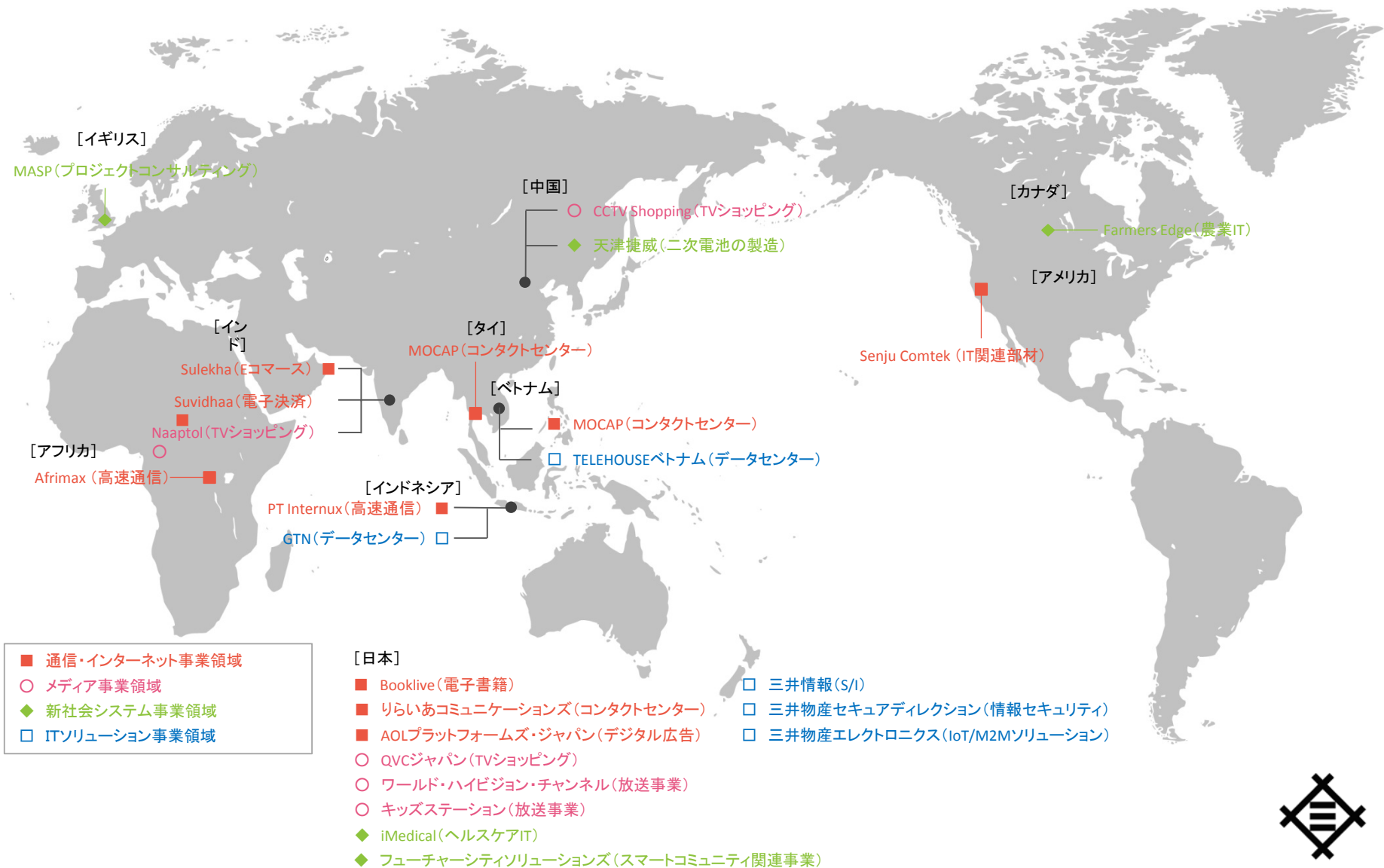
コンシューマーサービスの主な事業投資

2015年12月末現在



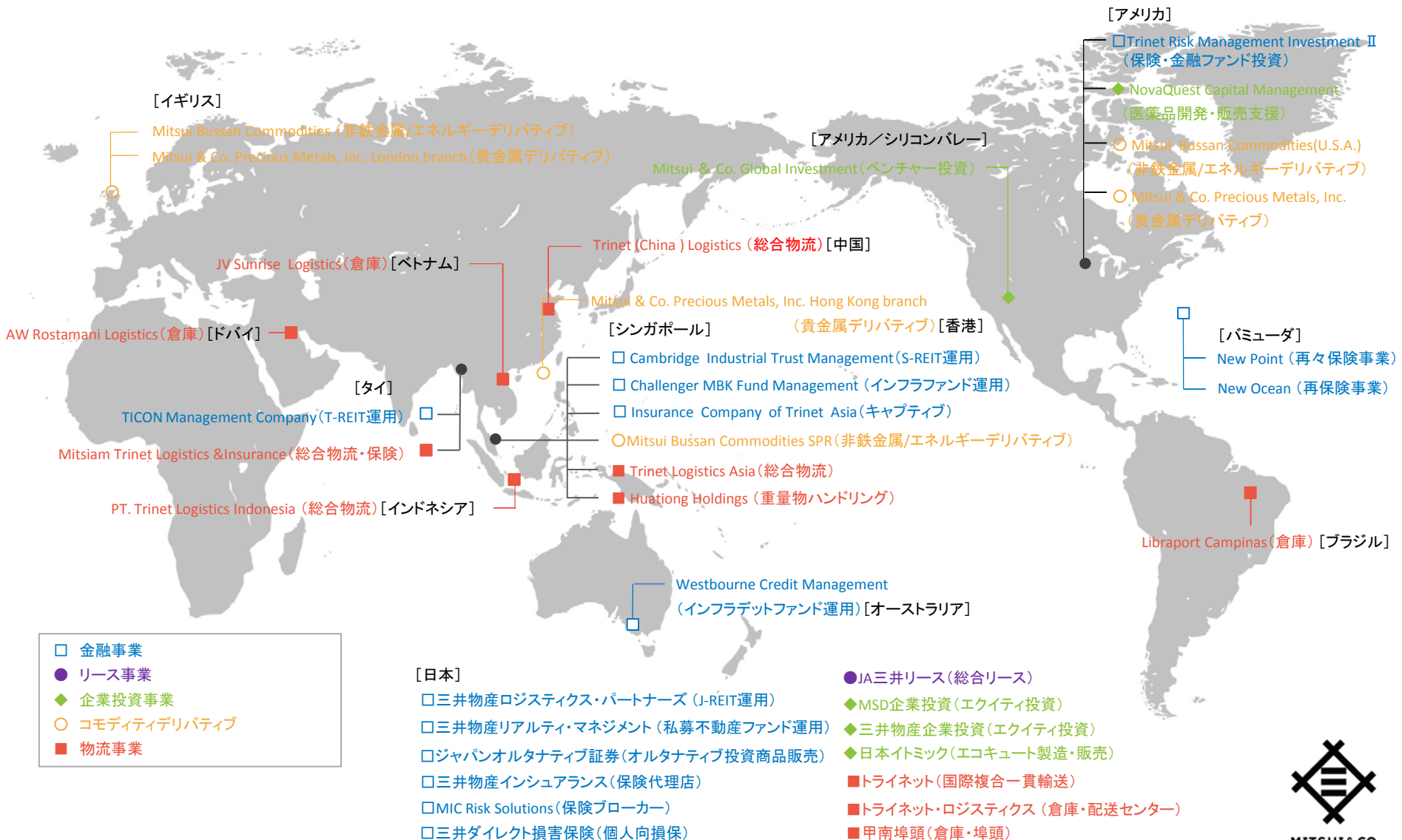
ICT事業の主な事業投資

2015年12月末現在



コーポレートディベロップメントの主な事業投資

2015年12月末現在



360° business innovation.



MITSUI & CO.